

期 日 2017.11.20(月)～22(水)

参加者 G藤、T岡、W邊典、T内、T屋弥、K藤、G谷、S木新、S木綾、H、M永、K原＝12名

1日目(11月20日)＝月・晴

コース 三島・イトーヨーカ堂6:00－東名－関越道－秩父市－秩父鉄道・和銅黒谷駅着9:50
－発9:59－聖神社10:07－和銅神社10:28－一番・四萬部寺11:29－昼食
－二番札所・13:44－三番・常良寺14:47－四番・15:37－バス－民宿「すぎ
の子」16:45(泊)

6時長泉発。関越道経由で秩父鉄道・和銅黒谷駅着。駅ホームには、日本通貨発祥の地の「和同開珎」(わどうかいちん)の大きなモニュメントがあった。

ここに丁度、貨物が入って来た。貨物は「無蓋車」と呼ばれるもので、屋根がない貨物。秩父産出のセメント原料の石灰岩を運んでいた。



和同開珎モニュメント



無蓋車



武甲山



札所一番・四萬部寺

正面には、その石灰岩産地の武甲山が聳えていた。ただ、山の三分の二ほどに大きな掘削道があり、大きな痕跡が残されていた。

聖神社を經由して、和銅神社着。昔の銅の露天掘り跡があった。裏道から、札所一番（秩父の場合は、札所一番と一般と逆）の四萬部寺（しまぶじ）着。

寺向かいに「旅籠・一番」という、築100年のイイ雰囲気宿があった。訪ねて少し話をした。

皆さんは、寺でご朱印帳などグッズを購入。ここで「発心」の記念写真撮影。昼食はバス中で撮った。



旅籠・一番



二番・真福寺



三番・常良寺



四番・金昌寺

午後の開始。二番・真福寺（しんぶくじ）は山の上。昼食後でキツかった。途中で自転車巡礼の若い女子に抜かれた。自転車は電動だった。駅で借りることが出来る。東京から日帰りの様だ。境内に冬桜。無住職ながら、雰囲気のある寺だった。

坂を下って三番・常泉寺（じょうせんじ）。本堂の竜の彫り物が立派。四番は金昌寺。石仏が素晴らしい。山門に大きなワラジ。

そういえば、この地のB級グルメは、「ワラジカツどん」だった。翌日、ドライバーが食べたが、食べきれなかったようだ。

本堂に乳飲み子を抱えた慈母観音があった。なかなか見ごたえのある観音様だった。マリア観音とも呼ばれているようだ。



マリア観音



民宿・すぎの子

他に大きな観音様があった。3mくらいのもので、建屋の丸い窓越しに丁度、お顔が見られる設計だった。ほか、お酒の好きの石仏は、片手に徳利、頭に盃を被っていた。
一日目は、ここで終了。秩父中心街は安い宿がなかった。バスで15分程移動して宿に到着。元庄屋を改築した民宿「すぎの子」。



徳利石仏



窓越し観音様



茅葺の犬小屋（笑い）



大ババさま



大演説会！！??

建屋は茅葺で雰囲気はなかなか良い。ただ、建屋が古いだけに、音・寒気（障子の外は廊下で半分、雨戸がない）ここも夏は学生さんが中心の宿とのこと。犬小屋も茅葺だった。囲炉裏もあった。

宿は、オババと息子、その嫁の三人で賄っていた。売りは何といてもオババ。

年齢は77歳。能弁で野菜の調理・加工の知識は最上級だった。従って、喋り出したら止まらなく、延々とご教授いただいた。

女性軍は大いに喜んだ。ただ、余りにレシピが多く、覚えきれない。後日、書き物を送って下さいと、名刺を置いて来た。

梅干を350g・500円で売っていた。購入したが、サイコーの味でした。今時、このような方は、貴重な方ですね。

2日目（11月21日）＝火・快晴、朝は冷えた

タイム 起床6:00－朝食7:30－バス発8:20－四番・金昌寺8:40－五番・9:01－七番・法長寺9:48－六番・ト雲寺（ぼくうんじ）10:16－八番・西善寺10:52－九番・明智寺11:35－昼食－十番・大慈寺13:50－十一番・常楽寺14:36－十二番・野坂寺15:09－バス－民宿「すぎの子」16:30（泊）

民宿「すぎの子」の庭には、犬が一匹いた。見ればその犬小屋も立派な「茅葺」だった。

恐らく日本一の犬小屋だろう。何と幸せな、ワンちゃんだろうか。

顔を見ると、眼の上に黒い模様があって、何故か笑っているように見える。（笑い）

朝はモーレツに冷えた。男性が泊まった一階の部屋は、廊下があり、雨戸は半分しかない。

従って部屋の障子は外の外気がモロに当たる。カーテンはあったが、隙間風がスースーだった。

庭の宿の車のフロントガラスはガジガジだった。この地は標高約300m。

緯度も三島・長泉より高い。降雪は少ないが内陸の冷え込みは、相当なモノ。しかも、東が山の為、朝日は遅かった。

バスで昨日最終の四番・金昌寺（きんしょうじ）に戻る。綺麗で立派なトイレを使い出発。

五番・語歌堂（ごかのどう）は小さく無住職。六番・ト雲寺（ぼくうんじ）は、少し山の上。

周辺は紅葉が凄い。ここも大きくはない。サポーターが、お経本を貰った。



武甲山



西武秩父線

七番・法長寺（ほうちょうじ）に向かう。バス巡礼の方が来た。白衣を着けていなかった。

四国はバス巡礼でも、身なりはシッカリしている。

先達のお経は、物凄く速かった。目の前、横瀬川の向こうに、大きな武甲山（1304m）が迫る。武甲山は、いわずと知れた、石灰岩採掘の山。山の中央に大きな碎石道が出来て、山が分断されていた。早朝からガラガラ音が聞こえる。しかも、温泉の湯気みたいな、土埃が各所で上がっていた。確かに石灰岩が無ければセメントは作れず、ビル・橋梁などは出来ない。

しかし、自然破壊は著しい。秩父市に落ちる税金も大きいだろう。人間は絶対的に自然を利用して生きている。どの程度に塩梅をつけるか、要はバランスの問題である。

七番・法長寺から八番・西善寺（さいぜんじ）に向かう。

寺は武甲山の一角みたいな感じで、坂上にあった。寺入場は1000円の有料だった。ただし、ご朱印（3000円）をやる方は無料。

四国・伊豆とか巡礼を各地で行っているが、入場有料（拝観料）は初めて。理由は不明。

ただ、この寺には、樹齢600年の「コミネカエデ」という、見事なカエデがある。

その維持費として入場料を取っているのかも。確かに、巡礼でなくカエデ見学のみで来る人も多い感じだった。それにしても、今まで見たことがない、見事なカエデだった。



明智寺



坂を下り西武鉄道沿いに進む。下からカエデ見学風な巡礼着をつけていない方が、何人か上ってきた。丁度、電車が通過して行った。下り切って、九番・明智寺。

小さい寺だった。昼食時間になったので、バス移動。街のファミレスで頂いた。

バスドライバーが、例の「ワラジかつ丼」を食べたと言った。大きくて食べるに大変だったそうだ。昼食を終え、午後の巡礼。

明智寺から更に下り、十番・大慈寺（だいじじ）。大きな寺ではなかった。

次の十一番・常楽寺（じょうらくじ）へは、山道と下道があった。

二名下道で他は山道。山道は自然道で良かった。途中、山中に大きな神社があった。

常楽寺も大きくはなかった。裏通り通過し、十二番・野坂寺着。

今巡礼で一番立派な寺だった。ただ、裏道から来たので、長い参道を上れず残念。

山門に木造の観音様が片膝でほほ笑んでいた。一般的に仏さまは性別がないという。

しかし、この観音様は、どうみても女性に見える。

ただ、正面のお顔は微笑む優しいお顔だが、後部は恐ろしい鬼の形相だった。

後ろにも、もう一体の木造の観音様。こちらも乳房もあり、

優しい笑みを浮かべていた。皆さんが撫でるようだ、全体的にテラテラ光っている。

家に欲しい仏さまだ。

綺麗で大きな境内。この寺は本堂でお勤めをさせてくれる。木魚が十数個並んでいた。

ご本尊も黒い木造の観音様。これも素晴らしかった。宿泊はこの日も「すぎの子」だった。



3日目（11月22日）＝水・快晴

タイム 起床6：00－朝食7：30－バス発8：00－十三番・慈眼寺8：10－十四番・観音堂（今宮坊）9：10－十五番・少林寺9：20－十六番・西光寺9：34－十七番・定林寺10：10－十八番・神門寺10：47－大滝温泉－長泉

十二番・野坂寺から十三番・慈眼寺に向かう。西武秩父駅前を通過。駅には温泉もあった。隣接する秩父鉄道には、変わった名称の「お花畑駅」あった。寺は街の中だった。

14番・今宮坊はすぐ近く。あまりに近くて張り合いがない。十五番・少林寺もすぐ近く。十六番は、西光寺。十七番・定林寺も近い。この辺りは、固まってある。

十八番は、神門寺はR140の脇にあった。今回の巡礼は、ここで終了。今回も天気にも恵まれた巡礼だった。帰りは、雁坂トンネル経由で帰る。こちらが速い。

途中で寄った、道の駅「大滝温泉」は、Tさん推薦のなかなかいい温泉だった。

（了）



十三番・慈眼寺

